

第 18 期、第 19 期に向けて

第 14 期（2015 年）より支部長をお引き受けし、あっという間に 4 年が過ぎました。皆様のご協力のおかげで、東海支部会は大きなトラブルもなく、活発に活動できたと思っております。本当にありがとうございました。次の期も支部会の皆様からのご指導ご鞭撻をいただきながら、精一杯努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

現在、日本栄養改善学会の会員は少しずつ減少し、5,276 名（2020.5.21 現在）です。東海支部会の会員数は、支部長を任命された時には約 700 名でしたが、現在は 594 名で、600 名を切ってしまいました。近年、栄養関連のさまざまな学会や研究会が増え、栄養管理実務者はそれぞれの分野の専門性を高めるためや資格取得のために多くの学会に所属されます。そのために、日本栄養改善学会のように広く多くの分野が混在する学会は敬遠されてしまうことも会員減少の原因のひとつと思っています。しかしながら、栄養学を大きく捉え、さまざまな分野との関連を考えることこそ栄養学の実践には大切な観点です。これを実感できるのが栄養改善学会の良いところだと理解していただけるように、多くの方にアピールしていきたいと思っています。日本栄養改善学会のあるべき姿をぶらさずに、本筋を突き進むことが減少を食い止めることにつながると考えています。

そのために、実践栄養学分野の研究と研究に繋がる実践活動が盛んに行われ、その報告の場として日本栄養改善学会の学術総会を盛り上げていかなければなりません。東海支部会学術総会は第 6 回（第 14 期）から、利便性などを考えて「ウインクあいち」で開催し多くの方に参加いただいています。また、2017 年より実践栄養学研究セミナーを開催したこともあり、学術総会では研究報告だけでなく実践報告も増えてきました。この流れは変えずに、これからの支部会活動を計画していきたいと考えています。しかしながら、第 9 回学術総会はコロナウイルス感染予防の観点から延期となってしまいました。今年はとても残念でありましたが、寂しい思いをした分だけ 2021 年 6 月の第 9 回学術総会は大いに盛り上がると期待しております。

2023 年 9 月の第 70 回日本栄養改善学会学術総会は、東海支部会が担当になります。この時までには、もっと多くの実践栄養学研究が盛んになり、この全国大会に多くの発表演題を登録し、また、これをきっかけに東海支部会の会員が急増することを目指して、支部会活動に努めてまいります。

令和 2 年（2020 年）6 月 16 日

日本栄養改善学会東海支部会
支部長 塚原 丘美